

別紙様式2

令和3年度 県立玉造工業高等学校自己評価表

目指す学校像	- 至誠・勤勉・協和の校訓を基本に、現代社会における工業の果たす役割を理解させ、適切な技能、技術を習得させる。 - すぐれた個性の伸長と豊かな人間性の育成に努める。 - 社会の発展に寄与する産業人の育成を図る。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標		達成状況
・新教育課程への移行に伴う、成績処理システムやカリキュラムの編成など、変更のあるものへの対応。 ・タブレットの有効活用を図るため各教科にて、方法や手段の検討・研修さらに他校の活用事例の収集と紹介など。 ・新型コロナのため、学校行事が削減され玉工通信もほとんど発行できずに終わってしまった。次年度も同様の状況が予想されるので、通信の内容を検討する必要がある。 ・頭髪で指導される生徒が多くなっていることから、頭髪の明確な基準を構築する。 ・欠席・早退生徒は減少しているが、遅刻は一部の生徒に集中している現状であり、遅刻傾向のある生徒の早期指導が必要と考える。 ・依然として交通違反や交通事故件数が多く、原付バイク通学生徒を中心とした、交通安全への意識向上を促す指導体制を構築する。 ・特別指導の指導方法を再構築する。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴い、求人票受付開始以降は就職活動のスケジュールおよび実施方法・内容等に変更が生じる状況であった。求人件数自体の大幅な減少こそなかったものの各社の求人数が徐々に減少する中で1次試験合格者の低下、進路決定時期遅延の不安等を抱えながらも、就職希望者への支援に努めたことで例年並みといえる結果につながったと考えられる。しかしながら、1・2年生の進路指導については、不足感是否めない状況であった。次年度は対面形式以外の方法(オンライン形式等)も含めて実施計画を練るなどの対応に心掛け、就業意欲の向上を図れる指導を進めていく。 ・進学希望者への情報提供等については、担任をはじめとする学年の職員との間で情報交換に努め、職員間での連携と情報共有を進めることで、進学希望生徒への指導の充実を図っていく。 ・図書館利用者数の増加を目指す。 ・安全な学校生活を送れるよう、引き続き毎月環境安全点検を確実に行うとともに、修繕箇所の速やかな修繕に努める。 ・新型コロナ感染症予防対策として、消毒を徹底し安全に過ごせる環境作りをめざす。 ・文書や広報誌を通しての非対面的交流でのPTA活動であった。新型コロナウイルス感染症対策下の活動は、本校のみならず全国的に行事は中止され文書決済となった。行事が行えず不安であったが、大きな不信感を生じず、PTA活動と行事の簡素化と精選が可能な状態になった。来年度も、感染症の影響は拭えず、例年通りの行事実行は不可能と思われる。よって、卒業式頃に予定するPTA・後援会幹部の意見交換を基に新しい本校PTA活動を模索したい。 ・生徒数に見合った部活動数の精選。 ・今年度は、新型コロナウイルス感染防止によって学校行事が行えなかったり、行い方を変えて行ったりした。状況に応じて柔軟に学校行事を行っていきたい	分かる授業を展開し、基礎学力の向上を図る。	①	生徒の実態に応じ、学習内容を精選して基礎学力の向上を図る。	B
		②	各教科内で研修を充実させ、分かる授業の展開と教科間の連携を図る。	B
		③	学習規律の向上を目指すとともに、習熟度別授業の充実を図る。	B
		④	生徒の主体的に学ぶ意識を育むため、家庭学習の定着化を図る。	B
		⑤	資格取得指導の充実を図る。	B
		⑥	進学希望者へ適切な指導を計画実施する。	B
		⑦	タブレット端末を活用した授業の開発を推進する。	B
基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図るとともに、交通安全教育の推進に努める。		⑧	挨拶の励行と欠席・遅刻・早退の減少に努める。	A
		⑨	頭髪や服装等を正そうとする意識を身につけさせる。	B
		⑩	社会人として必要な公共のマナーを身につけさせる。	B
		⑪	保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全確保に努める。	B
		⑫	交通安全教育を推進し、交通安全に対する意識の向上を図る。	B
望ましい勤労観や職業観の育成に努める。		⑬	全学年を通じ、計画的に進路に対する意識向上を図り、希望進路の実現を図る。	B
		⑭	企業見学やインターンシップを実施、また外部講師による講話、キャリアパスポートの活用などキャリア教育の充実を図る。	A
		⑮	企業及び大学等の情報を広く収集し、進路選択に役立たせる。	B
学校行事の充実ならびに、部活動及び奉仕体験活動の活発化を図る。		⑯	学校行事を通して生徒、保護者、地域との交流を図り、より充実感や達成感のあるものにする。	A
		⑰	部活動加入率を高め、活性化を図る。	B
		⑱	奉仕体験活動を充実させる。	C
		⑲	生徒の委員会活動を活発にする。	A
中学校や地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。		⑳	近隣中学校並びに地域への広報活動を充実させる。	C
		㉑	小中学校への出前授業を行う。	C
		㉒	行事を本校及び教育委員会のホームページ上で発信する。	C
		㉓	生徒・保護者及び教職員の相互の信頼関係を深める。	A
		㉔	個人情報保護、管理の徹底に努める。	B
安全で衛生的な環境作りを目指し、心身ともに健やかに学校生活を送れるように努める。		㉕	心と体の健康に留意し、健全な生活を送れるような体制作りに努める。	B
		㉖	安全で衛生的な環境作りに努める。	A
		㉗	不測の事態に備え、防災意識を高める。	B
校務の改善、学校行事の見直しに努める。		㉘	校務のマニュアルの作成及び内容の明確化を図る。	B
		㉙	学校行事の簡素化など見直しを行う。	A
		㉚	会議の効率化を図る。	B

※評価基準 A：十分達成できている、 B：達成できている、 C：概ね達成できている、 D：不十分である、 E：できていない

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策		評 価		次年度（学期）への主な課題	
教科指導（普通教科）	国語	適切に言葉を用いて、自分の意見を表現する知識を身につける。漢字や慣用句などの知識を獲得し、実際にそれらを用いて表現する。	文章を書いたり発表したりする体験を通して、言葉や表現に関する知識を獲得する。	①	C	B		・生徒たちに、人前で発表したり話したりする場を多く提供すること ・ICTを活用し、生徒の興味関心を惹くよう授業展開を工夫すること
			I C Tを活用し、新聞や映像といった教科書に依らない資料を積極的に用いる。	②⑦	C			
			毎時間、漢字ワークに取り組む時間を設定し、定期的に小テストを行う。	③	A			
	地歴・公民	基礎学力・学習意欲の向上を図るとともに考える力・表現する力・メディアリテラシーを養う。社会の事象を主体的に理解し、公正・公平に判断する力を養う。	タブレットや電子黒板を活用し、映像資料を見せるなどし、学習内容の理解を深めさせる。	⑦	A	A		電子黒板で視聴させる教材の精選。 オンライン教材の作成と蓄積。 生徒のレポート作成への効果的な個別の指導方法の模索。
			指導内容・方法についての打ち合わせを定期的に行い、共通理解を図る。	②	B			
			生徒の身近にある問題を取り上げるなど、学習内容を生徒の生活や他教科との既習事項と結びつけることで、学習意欲の向上を図る。	①②	A			
	数学	基礎学力の向上を図り、習熟度別授業の充実を図る。	複数教員の指導により生徒の理解度を把握し、板書を工夫し、基礎学力の向上を図る。	①③	A	A		特別に配慮を必要とする生徒への指導・評価について、教員間で定期的に打ち合わせを行う。
			定期的に課題を与え、家庭学習など学習する習慣を身に付けられるようにする。	④	A			
			課外授業を活用して、進学希望者の学力向上及び数学検定の取得に努める。	⑤⑥	B			
			指導内容・ICT活用方法についての打ち合わせを定期的に行い、共通理解を図る。	②⑦	A			
	理科	日常の現象との関連を図りながら、基礎学力、学習意欲の向上に努め、習熟度に応じて発展的な内容の授業を行う。	導入に視覚的な教材を用いるなど、生徒の興味関心を高める授業展開に努める。	①	A	A	B	・ I C Tを活用して、生徒の興味関心を高める、能動的に授業に取り組ませる。
			絶えず授業プリントを精査して、生徒の理解向上の助けにする。	①②	A			
			考査前に生徒に対して達成目標、到達目標を明確にして、的確な指導を目指す。	①	A			
	保健体育	基礎体力及び学習規律の向上、健康増進を図る。	生徒一人一人の基礎体力向上を目指した補助運動を行い、その回数及び適切な種目を考え指導する。	①	B	A		実技テストに向けた課題練習を補助運動として取り入れた。目標がわかっている分、生徒たちは意欲的に取り組むことができたが、回数や時間配分としては物足りない部分もあったため、次年度からは改善していきたい。
			服装や整列の仕方、準備や後片付けを指導し、学習規律の向上を目指すようにする。	③	A			
	美術	基礎的な描く力、見る力の育成を図る。	生徒の実態に合った題材を選択し、基礎的なものを描く力や作品を見る力の育成を図る。	①	B	B		幅広い題材、素材で創作意欲を高める。
	英語	学力向上に努め、対話から深く学ぼうとする態度を養う。	T.T.と少人数制で各個人のレベルにあった授業を行い、アクティブ・ラーニングを実践し、生徒の主体的・協働的活動の活性化を図る。	①③④	B	B		・生徒自ら英語学習に取り組み、協働的に授業を楽しむことをめざす。 ・英検の資格を取ることが就職と進学に役立つことを熟知させ、受験への取り組みを促す。 ・ALTとの活動を通して、異文化に親しめるよう努める。
			4技能（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）を積極的に伸ばし、能力に適合した資格の取得促進に努める。	⑤⑥⑦	B			
			遊びの要素を取り入れ、交流活動を通してながら異文化を学び、多文化共生社会で生きる態度を身につけさせる。	②⑩⑭	B			
	家庭	家庭生活に関する基礎的な知識・技能向上のための指導に努める。	プリントによる授業を展開し毎回点検することで生徒の実態把握に努め、学習内容の精選を図る。	①	B	B		・生徒個人のタブレット使用を前提とした授業展開を検討する。 ・主体的な取り組みを促すために、生徒の発表の場を適切にもうけるよう努める。
			生徒が主体的に取り組めるように、思考ツールやタブレットを活用した授業の開発に努める。	④⑦	B			
			調理室や被服室の整備を行うとともに、学年の先生方の協力を仰ぎ、安全で衛生的な環境で実習が行えるような体制作りに努める。	⑳	A			

※評価基準 A：十分達成できている， B：達成できている， C：概ね達成できている， D：不十分である， E：できていない

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策		評 価		次年度（学期）への主な課題	
教科指導（専門教科・工業）	機 械	基礎学力の向上、知識・技術・技能の効率的な指導を図るとともに、実社会に通用する人材を育成する。	実習内容の精選を継続的に実施し、３年間で身につけさせる技術をより明確にする。	①②	B	A	今年度は多くの先生方の積極的な働きかけにより、各種の資格取得や技能競技会等で昨年度の実績を大きく上回る結果を出すことができた。次年度においてもこれらの取り組みを継続し、一人でも多くの生徒に資格取得の指導ができる体制の更なる強化を図るとともに、常日頃から各自が実習や授業内容の教材研究に取り組み、3年間で生徒に身につけさせる生活習慣や技術・技能をより明確にしていくことをめざす。	
			生徒に自己評価させ、生徒の実態把握に努め、授業を充実させる。	③④	A			
			資格取得という目標を立てさせ、合格への前向きな姿勢を定着させるとともに、学習意欲を高める。また、技能士（旋盤・検査）やものづくりコンテスト等の指導を充実させる。 ICTの効果的な活用について検討する。	④⑤	A			
	機 械・エ ン エ ル	基礎・基本的な知識および技術の習得に向けて、わかる授業を展開する。 エネルギーに関する学習内容の充実を図る。	基礎・基本的な知識および技術の習得ができる実験・実習内容を精選し、新教育課程を検討をする。	①⑤⑥⑦	A	A	エネルギーに関する学習内容を充実させた実験・実習内容を精選し、知識および技術を習得させる。 企業および大学と連携を図り、充実したキャリア教育を行うことができるか検討する。	
			エネルギーに関する内容について学科内で研修を充実させる。座学と実験・実習の連携から、わかる授業を展開する。	②⑤⑥⑦	B			
			デュアルシステムや高大連携を実施し、企業および大学との連携を図る。キャリア教育の充実を図り、生徒の学習意欲向上に努める。	⑩⑭⑮	A			
	電 気	電気に関する基礎的な知識や基本的な技能の習得に向けて効率的な指導を図り、第二種電気工事士をはじめとした資格取得の指導の充実を図る。	電気に関する基礎的基本的な知識について教科内での意識を共有し、精選した内容をICTを活用した授業によって基礎学力の向上を図る。	①⑦	A	A	・座学と実習のより一層の関連づけを図り、理解に繋がる授業の展開を図る。 ・ICTをより効果的に活用した授業・実習に努め、タブレットを利用したわかりやすい授業実践を図る。 ・第二種電気工事士および第一種電気工事士の資格取得ため、筆記・実技指導を含め指導体制の充実を図る。 ・実習指導書、実習装置の充実を図る。	
			基礎的基本的な知識・技能の習得が図れるような実習の指導体制の構築及び座学の内容に見直しを図るとともに、実習・座学間の連携を図る。	①②	A			
			第二種電気工事士の取得指導を通し、電気に関する資格の習得のための知識・技能の習得のための指導体制の充実を図る。	⑤	A			
	情 報 技 術	基礎学力の向上、知識・技術・技能の効率的指導、資格取得の効率的指導に努める。	教科内で教職員の共通理解のもと、授業内容を精選し、卒業までに身につけさせたい能力と基礎的学力の確実な定着を目指す。	①②	B	B	・新学習指導要領の完全実施に向けて科内での授業内容の精選、構築を行う。 ・基礎学力の向上、卒業までに身につけさせたい力など将来を見通した学習内容を考える。 ・資格指導の指導力向上や効率を考え、生徒に対して有効な手段を検討する。 ・ICT機器を活用した授業・実習の展開し、生徒の学習意欲の向上を図る。 ・技能検定試験について、生徒に計画的に受検を勧め、進路に向けての準備をさせる。	
			教科内で教職員研修の実施や指導書の充実を図り、授業および資格指導の指導力向上を目指す。	①②	B			
			技能士「電子機器組立」「電気機器組立」等、資格試験指導を充実させ、合格者の安定および確保を図る。	①②⑤	B			
教 務	基礎学力の向上を図る。	基礎学力の向上や資格取得に対する意欲を育むために、朝の学習の時間の確保に努める。 数学、英語、理科と連携を図り、習熟の程度に応じた指導体制の工夫と改善を図る。	④⑤	B	B	・新教育課程については、学級減による機械・エネルギー科募集停止に係る部分については継続審議となった。令和5年度入学生に向けて、さらに良い教育課程となるように各教科と連携を図り検討していきたい。 ・ICTの活用については、オンライン学習の後押しもあり、大幅に前進した。この前進をさらに大きく躍進させるために、教科間の連携や情報共有、研修の機会などを多く設けていきたい。 ・新型コロナウイルスの影響が続く中、本年度も広報活動を充実させることができなかった。出前授業や放課後子供教室などの実施ができない分、学校HPでの配信などを充実させていきたい。 ・校内のネットワーク、教室のWi-Fi環境、学習用端末などの整備については、係を中心に迅速に対応することができたが、一気にいろいろなことが同時に進行していくため、戸惑いも多くあった。今後の計画をもとに、さらに教職員が利用しやすい環境を整えていきたい。 ・玉工通信の発行ができなかった。発行時期と発行責任者を係の中で決めて年間計画を立て、定期的な発行を目指したい。学校パンフレットについては予算もあり、業者担当との兼ね合いもあるが、充実したパンフレットにするために内容の検討をしたい。 ・小学生低学年レベルの学習が定着していない。卒業までには身につけさせられるような方策を考えたい。 ・情報機器を誰でも利用できるように簡易な研修内容を取り入れる。 ・募集減が更なる定員割れに繋がることも懸念される。玉工の魅力度をアップするために、従来の広報活動を一から見直す必要もある。		
			②③	B				
	教育課程の編成と運営に努める。	各教科と連携を図り、教科の特性や生徒の実態に応じた新教育課程の検討を行う。 教育課程を適切に実施するために、授業時間の確保と調整を行う。	②	A	A			
			①	B				
	校内研修の充実を図る。	ICT、特にタブレットPCの授業活用ならびに教材開発などの研修を行い、教員の情報機器を活用した授業の推進に努める。 校内の公開授業を行い、授業力の向上に努める。 校内研修の充実を図るとともに、各種会議の効率化を図る。	②⑦	B	B			
			②③	B				
			⑩	B				
	広報活動の充実を図る。	玉工通信の定期的な発行と学校パンフレットを充実させ小中学校へ配付する。また地域と連携した出前授業を行うなど、広報活動に努める。 中学生や保護者、地域の方を対象とした学校公開を行い、開かれた学校づくりに努める。 学校Webページを特活部と連携し内容を充実させ、学校の特色や魅力を伝える情報発信に努める。 「玉メール」を活用し、生徒と保護者へ連絡や情報発信に努める。	⑳㉑	C	B			
			⑯㉑	B				
			㉒	B				
	教育情報に関するネットワークの整理と管理に努める。	校内システムとデータを整理し、教職員が利用しやすい環境を整える。 教育情報ネットワークの活用と、セキュリティの強化及び個人情報の保護に努める。	㉔㉕	B	B			
			㉔	B				
生徒指導	基本的生活習慣の育成・確立を図る。	挨拶の励行や遅刻・早退・欠席の減少に努める。 服装、髪型に対する意識向上指導に努める。	⑧	A	A	B	・毎朝の立哨活動を行った。継続指導が出来るよう努める。 ・規範意識の向上を図るため、保護者・地域の方々と連携を図り学校教育活動全般を対象に生徒の規範意識の向上に努めた。継続した指導が求められるため今後も規範意識の向上に努める。 ・授業等でタブレット端末を使用するようになり、情報機器端末使用にあたってのモラル・マナーの理解・向上に努める。 ・地域の方々より本校生の交通マナーに対して貴重な御意見を頂くことがあった。各HRでの指導に加え定期的に登下校指導を行い、交通マナーの意識向上・啓発に努める。 ・各個人の判断力が求められる時代になってきた。時代の流れに即した服装頭髮検査を実施出来るようPTA役員・生徒会役員にアンケートを行った。それらの回答を参考にしながら職員間での統一を図るとともに、生徒1人ひとりの確かな判断力が身に付くような指導を服装頭髮検査のみならず学校教育活動全体を通して指導出来るよう努める	
			⑨	B				
	規範意識の育成を図る。	社会人として必要なマナーやモラル習得に努め、規範意識の向上を図る。 保護者や関係機関との連携を図り、生徒の規範意識向上と安全確保を図る。	⑩	B	B			
			⑪	B				
	安全教育の推進に努める。	交通安全教育を推進し、安全への意識向上を図る。	⑫	B	B			

※評価基準　A：十分達成できている，　B：達成できている，　　C：概ね達成できている，　　D：不十分である，　　E：できていない

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価			次年度（学期）への主な課題
進路指導	職業選択能力の早期育成を目指す。	能力に応じた進路目標を早期に持たせることにより、就業意欲の向上を図る。	⑬	B	B	・新型コロナウイルス感染症の対応を図りながら、対面とオンラインを上手に活用した進路指導を進めていく。 ・進路行事の内容や実施方法等には、生徒の希望や状況把握に努め、より柔軟な考え方と対応に心掛ける。 ・３学年の進路決定を見据えて、１・２学年での指導内容や方法等を各学年とともに検討し最適化を図っていく。 ・ハローワークや外部関係機関との連携を強化し、新たな情報や必要な知識を生徒・保護者に伝えていく。
		職業安定所職員等の外部講師を招き、話を実施する。	⑭	A		
		早期の企業見学、応募前企業見学、インターンシップを実施する。	⑭	B		
	組織的な進路指導を行う。	企業等と連携においてＩＣＴの積極的な活用を図り、より多くの情報を収集するとともに求人数の確保に努める。	⑮	B	B	
		進学希望者に必要な学習情報を提供するとともに、適切な支援を実施する。	⑮	B		
		面談等で自分の考えや意見を伝える練習を行うことにより、コミュニケーション能力の育成を図る。	⑬	B		
学習指導	基礎学力の向上に努める。	授業内容を精選し基礎学力の定着を目指す。朝の学習・読書の時間を有効に活用する。	①	A	B	・進学希望者に対してより充実した課外を目指す。 ・進路関連の図書を新しくする。
		長期休業中に宿題を出し、確認テストを行う。	①	B		
	資格取得指導及び進学指導を充実させる。	課外授業ならびに資格取得講座を積極的に生徒にアピールし、放課後の時間を有効活用できるようにする。	⑤	A	A	
		進学希望者に対して大学等の情報を発信し、また課外授業においてより高度な内容を扱い、科選択において進学コース希望者を確保する。	⑥	B		
		長期休業中に集中講座を実施する。	⑥	A		
	図書館の利用を促進する。	魅力ある図書館作りを工夫する。読書ばかりではなく学習の場としての図書館もアピールする。	①	A	A	
		生徒向け図書を増やし、図書の貸し出し数増加を目指す。	①	A		
	保健厚生	安全で衛生的な環境を作る。	快適・安全な学校生活を送れるように、毎月の環境安全点検を確実にに行い、修繕箇所の把握と速やかな修繕に努める。	⑫	A	
清潔・快適・安全な環境を保つために、清掃の徹底を図るとともに、各種施設利用のマナーの徹底を行う。			⑫	B		
特別支援体制の確立と、教育相談を更に充実させる。		特別支援の校内体制の確立と、支援を要する生徒に対して校外協力機関と連携し適切な支援に努める。	⑮	B	B	
災害対応マニュアルの見直しと、防災意識を喚起する。		各種防災マニュアルの整備と見直しを行うとともに、防災意識向上に効果的な内容の避難訓練避難訓練を行う。	⑮⑯	B	B	
渉外	PTA活動を活発にする。	学校行事を通して生徒、保護者、地域との交流を図り、より充実感や達成感のあるものにする。	⑮	A	A	○ 地区組織の改正 ○ PTA会則、後援会会則の変更 ○ 全校生徒の賠償責任制度の加入 ○ チャーターバス料金の回収率や滞納生徒への対応
		生徒・保護者及び教職員の相互の信頼関係を深める。	⑮	A		
	チャーターバスの安全運行の継続に努める。	保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全確保に努める。	⑪	A	A	
	生徒の校内外での安全確保に努める。	社会人として必要な公共のマナーを身につけさせる。	⑩	B		
	会員や学校の実態に合った会則を作成する。	校務のマニュアルの作成及び内容の明確化を図る。	⑮	A		
特別活動	学校行事を充実させる。	新型コロナウイルス感染防止を徹底しながら行い方を工夫し様々な行事を実行する。また、学校行事への自発的・自主的な取組を促すため、キャリアパスポートを活用させる。	⑮⑯	A	A	・今年度は新型コロナウイルス感染防止を行いながら、文化祭を実施することができた。来年度も行い方を工夫し、できる限り行事を実行できるようにしていきたい。 ・学校HPを活用した情報発信については、まだ改善の余地がある。来年度は、さらに本校の部活動や行事について情報を発信し、地域住民に応援されるような学校運営をしていきたい。
	部活動を活性化させる。	生徒数の減少に伴い部活動を精選する。また、新入生の部活動加入率を向上させ部活動の活性化を図る。	⑰	B	B	
	奉仕活動を充実させる。	ボランティア活動を積極的に奨励し、地域の各種ボランティア行事への積極的な参加を図る。	⑰	C	C	
	広報活動を充実させる。	地域の他団体との交流事業に参加。学校HPを活用した情報発信。また本校主催の地域交流事業を継続し、地域住民との積極的な交流を図る。	⑳㉑	C	C	
	生徒会活動を活発にする。	学校行事を生徒会役員が主体となって運営できるよう、生徒会運営委員会を月毎に実施し学校行事の円滑な運営を行えるようにする。	⑰	A	A	

※評価基準 A：十分達成できている、 B：達成できている、 C：概ね達成できている、 D：不十分である、 E：できていない

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策		評 価		次年度（学期）への主な課題	
学 年	第 1 学 年	基礎学力の向上を目指す。	教科間で連携を図り、生徒の実態把握に努める。その上で、タブレット端末を有効活用し、学習意欲の定着・向上、主体的な学習態度を育成する。	①②⑦	C	C	・会社見学や訪問など、実際に現場で雰囲気を感じることでキャリア教育の充実を図る。 ・早期に教育情報ネットワークに全員がログインできる環境を作り、学習指導において積極的な活用を図る。 ・会社・学校見学の機会を、オンライン形式も含め確保に努める。 ・タブレット端末を使用するようになり、SNSでの問題行動も発生してきている。引き続き情報機器の使用にあたってのモラル・マナーの向上に努める。 ・キャリアパスポートの記入など、振り返りの充実を図る。	
			積極的な授業への取り組みを促し、基礎・基本を定着させる。さらに課題等を課すことで家庭学習の定着を図る。	④	C			
			資格取得、課外授業、部活動加入等への積極的・継続的に参加する姿勢を育成する。	⑤⑯	B			
		基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。	家庭との連絡を密に取り、生活状況を把握し、欠席・遅刻・早退の防止に努める。	⑧⑪	B	B		
			頭髮服装検査、校内巡視を定期的に実施し、高校生らしい身なりやマナーを身につけさせ、規範意識を向上させる。	⑨	B			
			部活動や学校行事を通して、協調性や社会性の向上を図る。また、学校教育の中に情報教育を取り入れ、SNSでのトラブル防止、情報モラルの育成を図る。	⑩⑯⑰	C			
		進路目標の早期明確化を目指す。	面談等を通して進路に対する関心を高めるとともに、社会人として必要なマナーを向上させる。	⑩⑬	B	B		
			進路ガイダンス等を実施し、個々の適性を見出す機会を設ける。	⑬	B			
			キャリアパスポートを活用し、進路に対する総合的な探求の時間の充実を図り、会社・学校見学を実施するなどキャリア教育の充実を図る。	⑭⑮	C			
	第 2 学 年	基礎学力の向上を図る	朝自習の時間を充実させ、基礎・基本の問題を中心とした課題に取り組ませ、基礎学力の向上を図る。	①	B	A	・入社試験に向けての基礎学力の向上と、試験対策を強力に進める。 ・修学旅行中止による代替行事の検討をする。 ・進路決定に至るまでの生徒、家庭との情報共有を密にする。 ・バス見学会、会社見学等を早めに行うなど進路指導の充実を図る。 ・成人に伴う規範意識や行動、責任感の向上を図る。	
			授業においてICT機器を積極的に活用し、学ぶ意欲の向上と定着を図る。	①⑦	A			
			資格取得の案内や補講、課外などから意欲的な資格取得を目指す生徒を育成する。	⑤⑥	A			
		基本的生活習慣の確立と、学校生活の充実を図る。	家庭との連絡を密に取り、遅刻の防止に努め、1年間皆勤の生徒30名以上を目指す。	⑧⑪	B	C		
			定期的に頭髮服装検査を実施し高校生らしい身なり身につけさせ、守れない生徒には家庭との連携を図る。	⑨⑪	B			
			修学旅行等の学校行事を通じて、充実した学校生活を送ることにより達成感、成就感を図る。	⑯	D			
		進路指導（キャリア教育）を充実させる	進路ガイダンスを実施し、上級学校や企業見学等への積極的参加を呼びかけ、進路に向けての準備指導を行う。	⑬⑭⑮	A	A		
			インターンシップやデュアルシステムを実施することにより、体験的な進路指導を充実させる。	⑭⑮	A			
			保護者面談時に進路についての具体的な希望を聞き、家庭との連携を図った進路指導の充実を図る。	⑭⑮⑳	A			
	第 3 学 年	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図る	・服装頭髮検査と校内巡視を通して、最高学年として下級生の模範となるよう落ち着いた生活態度を身につけさせる。	⑨⑩	A	A	・進路の学校推薦の順位を決める基準を早めに決めた方が指導しやすい。 ・履歴書の書き方が統一されていると指導がしやすい。 ・夏休み前までは一般常識やSPIを毎日取り組んだが、10月の学校再開以降、朝学で取り組ませる課題の準備が十分でなかった。	
			・個別面談を積極的に行うと共に、家庭との連絡を密に取り、生徒の生活状況を把握し、欠席・遅刻・早退の防止に努める。	⑧⑪	A			
			・部活動や学校行事を通して協調性や社会性の向上を図り、充実感や達成感の得られる学校環境を醸成する。	⑯	A			
		基礎学力の向上を図る	・毎日10分程度の課題に取り組ませ、問題を自ら解かせることで基礎・基本の定着と学習の定着を図る。	①④	B	B		
			・資格取得へ積極的・継続的に参加する姿勢を育成する。	⑤	B			
		希望進路の実現を目指す	・進路ガイダンスや面接指導、キャリアパスポート、インターネットを活用し、主体的に進路活動に取り組む姿勢を持たせる。	⑭⑮	A	A		
			・進路指導部と連携を図り、生徒一人一人に合ったきめ細かい進路指導を心がけ、早い段階で明確な目標を持たせる。	⑬⑮	A			

※評価基準 A：十分達成できている， B：達成できている， C：概ね達成できている， D：不十分である， E：できていない